

コレクションと鑑賞教育 <1>

オーストラリアの美術館教育の現場から

日時 | 2014年9月21日(日) 午後2時～4時30分 (開場1時30分)

会場 | 国立西洋美術館 講堂 (企画展示館地下2階) ※同時通訳あり

参加方法 | 当日午後1時より館内インフォメーションにて、お一人につき一枚聴講券を配付します。

定員 140名、全席自由、参加費無料

開催趣旨

美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育を、学習指導要領に関連付けて考える共同研究にあわせ、連続企画「コレクションと鑑賞教育」を3回に分けて行います。

1回目は、今年3月の調査で実見した、オーストラリアの美術館のスクール・プログラムについて報告します。さらに、ヴィクトリア国立美術館(メルボルン)の教育部長、ゲーナ・パネビアンコ氏をゲストに迎え、お話をうかがいます。高校2・3年生に向けての専門教育や、アボリジニなど先住民族の文化理解など、同国の特徴的な美術館教育について知る貴重な機会です。

内容

- 14:00-14:30 趣旨説明／調査報告 一條彰子(東京国立近代美術館)・寺島洋子(国立西洋美術館)
- 14:30-15:30 ゲスト・スピーカー「ヴィクトリア国立美術館のスクール・プログラム」
ゲーナ・パネビアンコ(ヴィクトリア国立美術館教育部ディレクター)
- 15:45-16:30 鼎談「オーストラリアの美術教育—学校と美術館」
寺島洋子・岡田京子(国立政策研究所)・奥村高明(聖徳大学)

ゲスト・スピーカー

ゲーナ・パネビアンコ (Gina Panebianco)

メルボルン大学で教育学を修めた後、高等学校で教職に就く。1986年よりオーストラリアで最も歴史のあるヴィクトリア国立美術館(National Gallery of Victoria)の教育担当となり、数多くのプログラムを実施してきた。現在は、同館の教育部部長として、幼児から大人までの幅広い来館者層に対応する全ての活動の企画、実施、研究、開発、評価を統括している。特に、ゲーナが参画している高校生を対象とする公募展「トップ・アーツ」は、オーストラリアに特徴的なプログラムの一つで高い評価を得ている。また、ヴィクトリア州の教育庁との連携戦略委員会の委員を併任、さらに2014年7月にメルボルンで開催された、国際美術教育連合(InSEA)の大会のホスト美術館として企画運営に協力した。今回の来日は、日豪学芸員交流プログラムの一環として文化庁の招聘助成金により実現した。



今後の予定

- 2015年1月9日(金) 午後2時～5時、東京国立近代美術館会議室
<2>「グッゲンハイム美術館のギャラリートーク体験」(エドευケーター対象、定員30名)
- 2015年1月10日(土) 午後2時～5時、国立西洋美術館講堂
<3>「米国の美術館教育の現場から」シャロン・バツスキー、ほか

※このシリーズ講演は、JSPS科研費・基盤(B)24300315の助成を受けたものです。
「美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発」(平成24～26年度、代表：一條)

お問い合わせ

国立西洋美術館教育普及室

電話：03-3828-5198